ブラジル朝日新聞

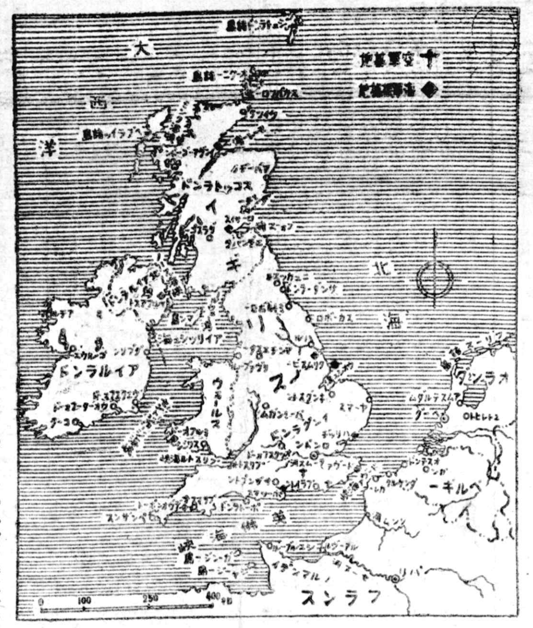
（毎日伯新聞）伯國聖市マエストロカルデン街一一〇九 發行所 ブラジル朝日新聞社 本紙定價年六十ミル 外國郵税共百廿ミル

危機迫る英本土

Concentração de forças allemãs para invadir a Inglaterra

滿月高潮の好機到來 獨軍待望の上陸作戰 續々戰略地點に集結の態勢

（ロンドン十五日同盟）ロンドン大空襲の後に來るものは獨軍の英本土上陸作戰と喧傳されてたが、いよ〳〵その期が迫つたとの感が深い、ヒトラー總統は英國侵略の武器として數十萬隻の艀舟群、イタリア兵および機械化部隊を用意し既にこれらは目下續々戰略的地點に集合してゐると傳へられるが、明十六日は滿月高潮であるからヒトラー總統にとり上陸作戰決行には逸すべからざる絶好の機會といふべきで、各方面ともこの點に重大關心を拂つてゐる



開戰以來の英空軍戰果

【ロンドン十五日同盟】英當局は十五日英空軍は開戰以來獨機總計二千百十三機を擊墜したと發表した

猛り狂ふ獨編隊 倫敦上空の死闘續く

【ロンドン十五日同盟】十四日夜から十五日拂曉にかけて獨空軍はまたも四度にわたり大編隊をもつてロンドンを來襲したが、午前十時五十一分獨機の編隊は再びロンドン中央部上空に飛來し、市内の高射砲陣地は一齊に射擊を開始殷々たる砲聲のうちに市上空で獨英兩空軍の猛烈な空中戰が展開された

總攻擊に備へる英本土（上） 狙はれるブリストル灣の守陣

英の狙はれる場所

獨伊のイギリス本土總攻擊もすでにドイツ占領地區たるノルウエー、ベルギー、オランダ、フランスの海岸線一帶に多大のドイツ軍を主とする優秀部隊が集結され、イギリスの北および東、南全部がその攻略圏内に置かれてゐるが、依然イングランド南半が主として狙はれてゐる、ヒツトラー總統の意表に出づる作戰必ずしも豫斷を許さずスコツトランド、エール方面への奇襲も豫想され得るが、北海の制海權掌握が困難なる限り、總攻擊戰の主體をなすものはやはりイングランド南半への攻擊で、それもイングランド南岸および東南岸は防備堅固なためヒツトラー總統はこんどは河岸をかへて脆弱點を衝く意味で恐らくイングランド南半を北部より遮斷し得る地位にある東方ウオツシユ灣、西方ブリストル灣にそれ〳〵奇襲上陸せしめ、まづイングランドの腰部をその最狹小部において切斷したのち南下、ロンドンへの包圍圏を漸次壓縮する作戰に出づるであらうとの見方が行はれてゐる、さらに大型艦船によらず主として小型艦艇を奇襲上陸用に使用する目的をもつてベルギー、オランダ、フランス海岸に多數集結しつゝあるといふのもナポレオンの作戰に似たり寄つたりのところがある、ただナポレオンの扁底舟が快速汽艇、快速水雷艇に置き換へられ、ナポレオンの大艦隊による制海權掌握が主として制空權に置き換へられ、ナポレオンのイギリス艦隊に對する牽制策に置き換へられるといふことも想像し得るところである

陸海空軍三位一體

ドイツがイギリス本土攻略に乘出す場合には豫めまづイギリス本土の軍事的諸根據地、とりわけ主としてその軍港および空軍基地に徹底的爆擊を加へ、しかるのち落下傘部隊、航空、陸兵など多數を送り脆弱點を狙つて海岸上陸據點を占領させ、これに呼應して空軍掩護のもとに數千の小艦艇をもつて陸兵を上陸せしめるといふ陸海空三位一體の協同作戰に出づるであらう

優勢海軍と軍港

イギリスは海軍により今日の世界に跨がる版圖を擴げた國だけに從來から海軍が最も重視され、從つて陸海空三軍のうち海軍が最も優勢であるがその根據地は往時は主として東南岸及び南岸に置かれ、今世紀のはじめごろドイツ海軍が漸く勃興するにいたつてはじめて北方が重視され、諸所に軍港が置かれるにいたつたまづ英佛海峽に面する南岸から一瞥するにポーツマス、ポートランド、プリマス、デヴオンポートがある、南方防備の樞軸ともいふべきものはポーツマスで、商港サザンプトンの東南に位し前方にはワイト島の自然の防砦を控へ、背後は丘陵に圍まれ、ワイト島との間は東南および西南兩方面から狹い海峽を通つて入ることができる港内は廣く深く絶好の艦隊碇泊所となり、僅にイギリス全艦隊を收容するに足るといはれてゐる、加ふるに陸、空の防備施設も完備しかつスピツトヘツドには海軍工廠があつて建艦、修理の施設完璧を極めてゐる、ポーツマスの西方のポートランドは最大な岬の裏側に當るところにある、地勢自然の要害をなしてゐるがポーツマス軍港の補助的役割しか持たない、プリマス、デヴオンポートは一體をなして英佛海峽防備とゝもにエール南岸および海峽入口監視の役割を振當てられてゐるがポーツマスにおけるワイト島のごとき自然の防壁なく、このため防波堤が構築されてゐる建艦、修理兩用の海軍工廠があり、附近のダートマスには海軍兵學校がある

英側發表戰果は笑止千萬なデマ 獨空軍痛烈な揶揄

【ベルリン十五日同盟】英當局は十五日獨機百七十五機を擊墜したと發表してゐるが、獨空軍當局では右英側發表を一笑に付し 十五日の空襲に參加した獨空軍は僅か百七十九機に過ぎなかつた と語つた

亞國からの食料品 英、支拂ひに新手 焦つき資金から棒引き

【ロンドン十五日同盟】イギリス政府はアルゼンチンから肉類および穀物輸入のため、目下アルゼンチン政府とその支拂ひ方法につき交渉中で、その一部はイギリス所有アルゼンチン債のアルゼンチンへの引渡しによつて行はれるやう交渉を進めてゐることは疑問の余地ないところであつてイギリスが金および外國爲替を減少せしむることなく輸入を增加し得るならば、それはイギリスの歐大陸封鎖により過剩滯貨に惱む南米諸國の困難を解決し得るものとして考へるべきであるとされてゐるいづれにせよアルゼンチンがその輸出代金として自國債を受け取るといふことは、イギリスが巨額の外國債を所有し

戰後は一體どうなる？ 米、金を抱えて惱む 獨伊と諮つて再分配說

【ニューヨーク十四日同盟】巨額の流入金が戰後いつたい何うなるかといふ議論は、最近獨機のイギリス猛爆に注意を奪はれて、アメリカでは一時下火になつてゐたが、過般のボ、ロ・ヂタリア紙上においてファシスト產業資本家聯盟總裁ヴオルチ・デ・ミストラタがアメリカは戰後獨伊兩國とはかつて金の再分配を計るべきであり、然らずんば金は國際決濟手段としての役割を完全に喪失するだらうと論じたゝめ、金の將來に對する不安人氣を新に擡頭せしめた消息通は金問題の激化對策として、ル大統領は大統領選擧までに金自由處置の復活を行ふだらうと見てゐるが、かゝる手段は大問題を惹起せざるを得ないとして疑問視してゐる

バルカン平和維持に ソ聯、代償を要求 近くドナウ會議開催か

【ニューヨーク十五日同盟】十五日の紐育タイムス、ワシントン特電は獨ソ主催により近く開催豫定のドナウ河會議において、ソ聯は獨伊バルカン政策の基調たる平和維持の代償としてブルガリアに親ソ政權の樹立を要求する意向といはれる、これに對しドイツはバルカンその他に對するソ聯との協定乃至取極めは全て戰爭終了後新に檢討さるべきものだとの建前からソ聯の要求に對して一應應諾するものと見られてゐるが、一方イタリアはソ聯の威力がベッサラビア以西に伸展することを喜ばず、戰爭のドサクサまぎれにソ聯がバルカンで獲得したものは全て永久的なものとなる虞れありとの見解をとりドイツの對ソ讓步に反對してゐるといはれ右會議の前途は多難が豫想されると傳へてゐる

思はぬ洋上の活劇 損害輕微、支那人船員四名負傷 海軍機の誤爆事件

【東京十四日】米UP通信所報、日本海軍機は東京西南八十キロの海上で演習中、誤まつて付近航行中のカナダ太平洋汽船會社のエムプレツス・オブ・エーシヤ號に小型爆彈を命中せしめたが、船尾に輕微な損害を與へ乘組支那人船員四名を傷付けたのみであつた日本海軍省の發表によれば右海軍機は、同汽船を爆擊調練用の標的船と誤認して、調練用の小型爆彈を投下せるものだといはれる、エーシヤ號は船體を灰色に塗り高射砲も裝備してゐたが、飛行機に對し發射したか否かは知られてゐない、百九十三名の乘客は不意の空襲に大恐慌に陷り救助ボートや救命袋を用意したが間もなく飛行機が空襲し來つたものでなく誤爆なりしこと判明、平靜を取戻した

英船の誤り 誤爆受難船

【東京十六日同盟】十四日特種情報中に米國船エンプレス・オヴ・エーシア號とあるは英國船の誤りにつき右訂正す

生糸輸出高 八月中における 前月に比し減少

【東京十五日同盟】八月中生糸輸出高は數量二萬四千三百四十六俵、價額三千三百六十五萬七千圓で、前月比數量は六分七厘、價額は九分三厘のいづれも減少である、また前年に比すれば數量は三割七分價額は二割九分と何れも減少となつた

失地回復を要求！ 泰國、佛政府と交渉 マレー國境に駐屯軍增强

【バンコツク十六日同盟】泰國政府ではさきにフランス政府に對し失地回復問題に關する交渉を開始する旨聲明したが、ソンクラム泰國首相は十六日改めて同問題に關し、泰國政府はかつて泰國に屬してゐた領土の回復問題につき目下交渉中であるとの聲明をするとゝもにマレー國境付近の數都市に駐屯せしむるため、目下バンコツクより守備隊を增强中である旨發表した、一方確報によれば泰國政府は泰佛印兩國新國境確定を見るまで泰、佛印不侵略協定の批准を行ふ方針を決した

てゐることに鑑み、廣く各國にも適用し得るものとして注目される

敗戰誘導の元兇 ブルム收監さる

【ブイシー十五日同盟】レオン・ブルム社會黨首は十五日既にダラヂエ、レイノー、ガムラン、マンデルらの前佛政府首腦が戰爭の責任追究のため監禁されてゐる近郊のシアゼロンの古城に收容された、ブイシー政府はブルムこそは一週四十時間の勞働制のごとき社會改革をなして生產力殊に軍需生產力を低下せしめ、佛蘇協力政策によつてフランスに最大の過誤を犯さしめた責任者であるといつてゐる

トピック解剖 イギリス戰時經濟の二大支柱

英國はアルゼンチンから戰時必要とする物資を買ふため、その取引方法につき、英國がアルゼンチンに貸付けてゐる債權と差ツ引き勘定にしたいといふ交渉を進めてをり、これに成功すれば、中南米諸國中英國に對して債務關係にある國々へも及ぼしたい意向であると傳へられてゐる

英國は今次戰爭に際しても「船あり、人あり、金もある」といふ金持的スローガンを掲げ、世界に對して戰捷英にあることを宣傳してゐたが、戰爭に勝つためには、その國の測定困難ないはゆる國際金融資源が決定的役割を演ずることは疑ひなからう英國は自己の生產力だけでは長期戰に勝てないことをよく知つてゐる、故に英國の希求するところは、世界における英國の金融的地位が、軍需品、原料、食糧の尨大な輸入を賄つてくれることにある、第一次大戰當時英國は約十二億五千万ポンドの外國クレヂツトを獲得したが、今度はさううまくゆくかどうか疑問とされてゐる、といふのは、前大戰當時の外國債權者がその戰時クレヂツトには懲り〳〵してゐるのと、中立諸國の大部分はこんどは餘り好意をよせてゐないからであらう、故に英國はどうしても自分の國際金融力の他の二支柱たる、金準備と對外投資と、この二つに一切の望みをかけざるを得ないのである、英國の金保有高は充分かと申すと、詳しいことは省略するが、要するに英國現在の金保有高は主としてたゞ外國のために信託されてゐるに過ぎない短期外國投資に基いてゐるものと見てよいので、從つてその資金殘高は金に代るスターリングの蓄積、ホツト・マネーの米國流入などを原因として、著しく支拂勘定になつてゐるのではないかと思はれる、それにフランスに對しても援助的金準備をしてゐた筈であるから、とういふ部分を除くと、一層かんばしくないものではないかと思はれる、それでは海外投資の方は何うかと云ふと、これ亦、いろいろの點から考へて、中立諸國から物資を輸入する資金として利用し得べきものは、ほんの一部分にしか當らないことがわかるのである、さらに世界的物價水準の騰貴のために、特定資本金額の購買力は今日よほど低くなつて居る、それから英國の海外投資中その屬領植民地へが三分の二、其他の國へが三分の一となつてをり、その總額は一九三七年末キングスレー卿の推定によると三億七千五百万ポンドであるといふから、純粹外國投資額は約一億二千五百万ポンドに過ぎないので、その一部分がアルゼンチンに對する如く、物資購買に利用されて見たところで、さまで驚くべき力を有つものであるとは考へられない、英國の戰時經濟力はその豪語するところに比し、かなり脆弱な點があるのではなからうか

マークと共に音色の責れっこ コロムビア

コロムビア特報 ブラジルコロムビア獨特！「お好み名曲組合せ盤」

さきに淡谷のり子のヒット盤「別れのブルース」「日本の窓で」の二名曲を裏表一枚に組合せて皆さまの御好評を頂きました、これは日本コロムビアでも未だ試みたことのない弊社の獨特新機軸でございます、この度び左記端唄、流行歌、軍局歌のうちの傑作を選り、ひして数許改めて皆さまのお耳に達することにいたしました

▽お好み名曲組合せ盤△

番號	種類	曲名	演奏者
16027	端唄・小唄	青柳／槍さび	藤本二三吉
16028	流行歌	並木の雨（高橋掬太郎詩 原野爲二曲）／支那の夜（西條八十詩 竹岡信幸曲）	ミスコロムビア／渡邊はま子
16029	流行歌	愛馬の別れ（西條八十詩 江口夜詩曲）／潮來月夜（久保田宵二詩 竹岡信幸曲）	
16030	時局歌	兵を思へ（高橋掬太郎詩 阿部武雄曲）／續露營の歌（佐藤惣之助詩 古關裕而曲）	松平晃 伊藤久男／霧島昇 伊藤久男

▽再發賣△

「あんない〻盤がもう絶盤とは惜しい」と云ふ取次店各位のお言葉に應へて左記名曲十三種を再發賣致しました 皆さま既に御試聽濟みの名盤！ 早速御申込みを……

番號	種類	曲名	演奏者
29741	俚謠	安來節／串本節	
26237	小唄	米山甚句／都々逸	大中軒雲月
26305	俚謠	松前追分	錦織美佐子
29903-4	浪花節	南郷大尉戰死す	酒井雲
67678-9		廣瀨中佐	
69141-2 3-4		婦人愛國の歌	
30434	流行歌	白蘭の歌（大毎東日連載 東寶映畫）／乙女の合唱（久保田宵二詩 奥山貞吉曲）	伊藤久男 二葉あき子／奥山彩子
30428	流行歌	馬子唄道中（久保田宵二詩 奥山貞吉曲）／港は無情（松村又一詩 天池芳雄曲）	伊藤久男／豆千代
29763	童謠	シタキリスズメ／オテテヲクンデ	長谷川まり子／大川、中島、飯田
29944	童謠	青空行進曲／太陽の子供	飯田ふさ江
66938	獨奏	ヴァイオリン獨奏 シューベルトのセレナーデ／荒城の月 ギター伴奏	杉田良造
28855	獨奏	ヴァイオリン獨奏 宵待草／螢の光	コンラウドリブレヒト
41001	獨奏	ハーモニカ獨奏 軍艦マーチ／越後獅子	

ブラジルコロムビア邦樂盤 發賣元 日伯社（電話三七五）

Iniciadas as conversações entre os delegados japonezes e as auctoridades das Indias Hollandezas

日蘭會商開幕近く

重要案件に就いては總督、特使と直接交渉
大東亞共榮圈に協同歩調

【東京十六日同盟】帝國特派使節として蘭印に派遣された小林商相は去る十三日チャルダ蘭印總督を訪問し、今回の會商の目的即ち大東亞共榮圈の確立に關し一般的且友好的會談を行つたが、この結果別項情報部長談の如く蘭印側代表が任命され、會商は原則として小林使節とファンモーク經濟長官の兩主席代表間において行はれることに決し近く開始されることゝなつた、なほ經濟問題に關聯、更に一般的な政治的國際的問題につき討議を要すべき重要案件については、チャルダ總督自身が直接小林使節と會談すべき旨を述べてるのでかゝる案件については小林、チャルダ間に直接協議が行はれることゝなつた、右に關し外務省では十六日次の如き情報部長談を發表した

日本蘭印交渉の蘭印側代表に關する情報部長談　日本、蘭領印度間の經濟問題交渉のため帝國政府特派使節として派遣されたる小林商工大臣はバタビア到着後早速蘭領印度總督を公式訪問し、今回訪問の目的に關し友好的會談を行つたが、その際總督より小林使節に對し會商中必要に應じ一般的利害に關する重要案件につき總督自身直接小林使節と會談を交換すべき旨を告げた、なほ蘭印側代表は經濟長官H・J・ファンモーク氏を主席とし司法長官K・L・J・エントホーフエン及び通商局長J・ファンオーギュストラーテンの兩氏が任命され、會商は小林使節及びファンモーク經濟長官の兩主席代表主催のもとに近く開始される筈である

わが荒鷲、晝に夜に重慶を矢繼早連爆
敵官民、完全に不眠症

【〇〇十六日同盟】中支艦隊報道部發表（十四日）、海軍航空隊は本日鈴木部隊長を總指揮官として重慶第卅六次晝間攻擊を實施、重慶郊外軍事施設を爆擊全機歸還せり

【〇〇十六日同盟】第卅七次　中支艦隊報道部〇〇基地發表（十五日）、海軍航空部隊は十四日仲秋の月明を利して重慶第卅七次夜間攻擊を實施せり即ち森田部隊長の指揮する攻擊隊は午後十一時卅分重慶上空に突入、城內重要施設を爆碎し、重慶官民をして不眠の淵に追ひ込めたり、數條の探照燈を認めたるのみにして敵の反擊さらになくわが全機歸還せり

【〇〇十六日同盟】第卅八次　中支艦隊報道部〇〇基地發表　十五日海軍航空部隊は本日密雲を冒して重慶第卅八次晝間爆擊を實施し、四時間にわたり重慶新市街東北ならびに西南郊外を爆碎全機歸還せり

【〇〇十六日同盟】中支艦隊報道部十六日發表、海軍航空部隊は今曉四時卅分重慶第卅九次夜間攻擊を敢行し、中江部隊長の指揮する爆擊機隊は暗雲を冒して重慶上空に突入すれば折から月明を見る、幸ひ重慶西郊要人住宅を痛爆し一ケ所より大火災を生ぜしめたり、敵の反擊更になく數條の探照燈を認めたるのみ、わが方全機歸還せり

重要國務に關し緊急臨時閣議を開催
富田書記官長談を發表

【東京十六日同盟】政府は十六日首相官邸において緊急臨時閣議を開催し、その內容に關し書記官長談をもつて左のごとく發表した

內閣書記官長談　本日重要國務につき臨時閣議を開會せられたり

梨本總裁宮を仰ぎ『空の記念日』制定
帝國飛行協會で創設

【東京十六日同盟】帝國飛行協會は光輝ある紀元二千六百年を記念し、また新に制定された空の記念日の重要行事として總裁宮梨本宮守正王殿下の台臨を仰ぎ來る廿九日午后日比谷公園廣場において近衛首相はじめ各大臣、陸海軍、民間航空關係者並に遺族など約六千名を招き、わが國民間航空創始以來の功勞者の表彰式を行ひ、續いて昭和十一年十月以降陸海軍並に民間航空の殉職者殊に今次事變に赫々たる武勳を樹て壯烈なる戰死を遂げた英靈を航空神社に合祀、合せてわが航空創始以來の戰死殉職者全部の大祭を盛大に執行することになつた、今回の擧式は大正三年帝國飛行協會創立以來の盛儀で功勞者表彰においては總裁の宮より初代帝國飛行協會々長大隈重信侯以下個人並に現存の空の功勞者四六名に對し表彰狀及び御紋章入りの花瓶及び煙草箱、銀盃などの御下賜品を親授され、更に坂谷會長から空の文筆功勞者北村小松以下十名、會員及び會費募集功勞者三十名、寄附金功勞者百二十二名に對し感狀及び記念品を贈與することになつてゐる

世界情勢に對應滿洲國軍を近代化
警察隊的軍隊から國防軍へ

【新京十六日同盟】滿洲國政府は世界情勢の緊迫に對應し從來の警察隊的國軍を一躍國防軍的水準に引上げ近代化すべくさきに國兵法を實施し國軍の中核的制度を確立すると共に軍隊教育に重點をおく建軍の新方針を樹立したが、治安部ではさらにその根幹となるべき軍隊教育令の制定を急ぎつゝあつたところこのほど漸く脫稿を見たので七日付公布即日施行することゝなつた、同教育令は綱領において滿洲國軍の使命、軍隊教育の目的、建國精神、軍人精神、軍規、軍隊教育と國民教育との關聯性その他を詳述、國軍の向ふところを明示してゐるが、軍の使命、建國精神については左のごとく示されてゐる

一、軍の使命　軍は日滿共同防衛の方針にもとづき日本軍と一體となり國家を擁護し建國の理想を實現し、もつて國威を宣揚するの使命を有す

一、建國精神とは日滿一德一心、民族協和、道義世界の顯現に精進する精神を有す故に軍は常にこの精神を涵養陶冶し自らその實踐者として國民の範を樹つるに至らざるべからず

現內閣最初の地方長官會議
來月上旬に召集

【東京十六日同盟】政府はいよいよ來月上旬現內閣最初の地方長官會議を召集するに決定、安井內相は今週ある定例閣議に會議の日取りを諮り、各閣僚の諒解を求めることゝなつた

飯米まで國家管理
各府縣の鎖國主義に鐵槌
新米出廻り控へ對策

【東京十六日同盟】新米出廻りに備へ農林省では生產農家の自家用米を除く全販賣米を國家管理に移し從來のごとき各道府縣の食糧鎖國主義を打破し、米穀數量操作の中央集權化を斷行すべく過般來企畫院、大藏、內務、商工三省などゝ協議中であつたが、十六日關係官廳間の最後的打合せを了したのでいよいよ十七日の定例閣議に該案を上程正式決定の上、農林大臣談の形式で政府の新米穀政策を聲明すると同時に內閣より新米管理案要綱を發表することゝなつた、さらに農林省では右閣議決定を待つて輸出入品など臨時措置法にもとづき（米穀管理の件）を公布實施すると共に全國道府縣經濟部長會議を召集、米穀國家管理の遂行に萬全を期することゝなつた　管理案要綱左のごとし

一、生產農家の自家用米を除く三千六百万石と全販賣米に對し國家管理を斷行する

一、政府は米穀國家管理の圓滿遂行を期するため民間團體に對し第二豫備金その他輸出により千八百三十万圓の國庫補助を行ふ

和平勢力に勝てず
抗日潜行分子一齊に自首
租界は漸次明朗化

【上海十六日同盟】重慶政權の指令下に租界を根城に暗躍を續けて來た重慶三民主義青年團上海支部の有力分子が、部員の名簿をたづさへ去る十三日夜滬西ゼスフヰールド路の警政部政治警察署に自首し時節柄注目を惹いてゐる、即ち同上海支部書記長吳培文、智識訓練係長呂哲、情報係長姜夢麟、總務係長王果爲、行動隊長張樹春らは、南京の國民政府の健實な發展と和平勢力の增大を認識するとゝもに重慶側の抗戰政策の前途に絶望し打ち揃つて同警察署に自首し來つたもので、同人ら提供の名簿によれば上海支部主任は重慶の特務分子として活躍し來つた吳紹樹で團員は八百余名に達してゐるが、各抗日分子の轉向者續出で、さしも猖獗を極めた上海の抗日分子の跳梁も一掃されることにならう

民間の國際宣傳戰へ外務省でも力瘤
對外團體續々傘下に馳す

【東京十四日同盟】國際文化宣傳はますます重要となつて來たが、この重大時期に際し民間の對外團體では團結して國際宣傳戰の役割を果たさうと、日獨伊親善協會の提唱で（對外團體報國聯合會）を結成することになり、十六日午後二時から學士會館で第一回準備委員會を開くことになつた、右聯合會には國際文化振興會、日獨文化協會、日伊學會、日米協會、日洪協會、日伊協會、日佛會館など東京、大阪、神戸、京都の民間團體約六十が參加することになつてをり、外務省も同會の設立に力瘤を入れ外務省の外廓團體として活躍せしむることになつた

首相、藏相ら參內

【東京十六日同盟】近衛首相は十六日午後三時宮中に參內　天皇陛下に拜謁仰せ付られ、一般政務につき委曲奏上種々御下問に奉答して退出した、また首相と前後して河田藏相ならびに星野企畫院總裁もそれぞれ參內　天皇陛下に拜謁仰せつけられ所管事項につき奏上した

デパートが副業に學校やホテル
七・七禁止令に經營の一大轉向案

"七・七禁止令"を轉機として經營方針の大轉換の必要に迫られた百貨店ではそれぞれ獨自の對策に頭をひねつてゐるが、在阪各デパートでは平時とはちがつた非常時型サーヴイスで顧客を吸收すると同時に副業を開始、豫想もしなかつた方向に活路を見出す模樣である

新サーヴイス政策の具體案としては品質の良い實用品の適正價格販賣で値段はそのまゝでも質をより一層吟味したもので客足をとめると同時に當然餘儀なくされる賣場縮小の合理化としてホテル、幼稚園、女學校、集會所等の經營を副業としてとりあげ、デパートの慨念を根本から變革する事業により利潤と同時に側面からの顧客地盤確保といふ一石二鳥の急轉換經營方針によつて百貨店の危機を切り抜けようといふのである

日獨伊の爭霸戰
わが庭球協會でやつと實現
兩國から選手派遣

【東京十六日同盟】ドイツの庭球選手派遣決定とゝもに、日本庭球協會では十六日イタリア庭球協會よりステファニほか一名の選手を派遣する旨回答があつた、かくて日本球界多年の懸題たりし日獨伊三國庭球戰がこの秋十月實現することゝなつた

新體制既に實現
促進同志會も解散

【東京十六日同盟】新體制促進同志會は政府の新體制準備會も十七日任務を完了し、いよいよその實現を見ることになつたので、新體制實現促進の目的を達したものとして十八日午後二時より本部において最後の總會を開き所信を聲明して解散することに決定した

大使館付武官

【東京十六日同盟】官報で左の如く發表された

海軍中佐山口捨次補ソヴエツト聯邦在勤帝國大使館付武官兼フインランド國在勤帝國公使館付武官

雇って下さい

子供連れの夫婦者　百姓以外の仕事

聖市ピネーロス區　クニヤ・ガーゴ街三四三

募集

洗濯職人を好條件にて募集致します

サンパウロ・レール・ウエイ・サント・アンドレ驛キンゼ・デ・ノーベンブロ二五二

チンツラリア・コスモス

電話　四三八番

社告

左記の者御地方へ出張致させて居ります故御配慮の程お願申上げます

リンス間ペンナポリス間	中山貞男
奥ソロ方面	小畑秀雄
アラサツーバ間カンポグランデ間	清地幸操
バウルー・ペラ・クルス間	弘本壽雄
パルエリーラ・カラピクイーバ方面	吉川光男
ビリグイ方面	片山英太郎
サンパウロ・レイルウエイ一帶	杉田定美
サントス＝ジュキア方面	山田實
バストス方面	平尾七五三吉

ブラジル朝日新聞社

神戸日伯協會會告

本會發行「ブラジル」誌衛文書報「日本の聲」其他刊行物は發行の都度御手許へ御送り申上げて居ますが、住所御變更の通知なくその爲受取人住所不明となつて再び日本へ返送されて來るもの、或は近頃一向雜誌が來ないと不平を申出でられる向が相當にありますので整理の都合上在伯會員會友各位の現住所を本會又は左記宛御通知願ふことにしました、御多忙中恐縮ですが右御願ひ申上げます

一、神戸日伯協會　神戸市海岸通一町目

二、Illmo. Snr. H. Oda　Caixa Postal, 2411 - S. Paulo

在伯會員、會友各位

Casa Anglo-Brasileira

SUCCESSORA DE MAPPIN STORES

洗面と入浴には英國製タオル地の品物をお使ひ下さい

英國直輸入の

洗面、入浴タオル
風呂場用絨氈
入浴用衣服
部屋着用織物

……一等豐富取揃へました……

ショーウインドー及二階、カーマ メーザ賣場の陳列を御覧下さい

カーザ・アングロ・ブラジレイラ

舊マッピン・ストーレス

ELECTRA　O MELHOR RELOGIO SUISSO

UNICOS DEPOSITARIOS　JOALHARIA CASA CASTRO

RUA 15 DE NOVEMBRO 41 ESQ. ANCHIETA

寶石商

カーザ・カストロ

總領事館、ブラジル拓植組合、海外興業會社、各地小學校并に運動團體より御買求めの榮を賜る

越中富山賣藥輸入

長森聖榮堂

本店　富山市堀端町

聖市郵函四一二八

支店　ハワイ・ホノルヽ市郵函一二九九

山田齒科療院

聖市バロン・デ・ヅツプラ街八九中央メルカード前

募集

聖市郊外に於て蔬菜、果樹、養鷄に從事する家族を好條件にて募集致します御希望の方は左記へ

モヂ產組出張所內　青田

聖市アニヤンガバウー九〇二

電話二一九八八六番

高級

パイロット萬年筆

Pilot

自働吸入式!!

十ヶ年保證付

35$ 以上各種

伯國總代理店

蜂谷兄弟商會

CAIXA POSTAL, 267 SAO PAULO

各地有名商店ニ有リ

クローズアップ

石射新大使の横顔
滿鐵病院の下級事務員から發奮 外交畑へ 百八十度の轉向

先輩を語る海興の中野さん

"松岡外交の新布石"鮮く新大使に任命された石射猪太郎氏は明治四十一年東亜同文書院商務科出身で當地海興支店事業部長中野巖氏より一年上の先輩であるが、石射駐伯大使の報を聞いた中野さんは懐しさうに左の如く語る

石射さんは一級上であつたが、同じ寄宿舎に合宿してゐたので非常に懇意にしてゐた、石射さんは卒業後滿鐵に入社されたので私も卒業後一、二年して滿洲へ行つて見て驚いた事には石射さんは滿鐵の下級事務員で、しかも滿鐵病院の事務員といふ下積の仕事をして居られた、我々は支那で敎育を受けたので卒業後は相當な口にありつけるものとお互ひ自信持つてゐたのだから、この滿鐵の人事には少なからず憤慨した、石射さんもその一人でその後電氣科の方へ廻されたが、滿鐵ではいくら辛棒しても理事になる見込もないので辭表を叩きつけて歸京、見事外交官試驗に合格して華々しく外交畑に轉ぜられた

石射大使は 學生時代にはこれといふ目立つた處もなく平凡な一學生であつたが、溫厚で非常に頭がよく腹の座つた人であつた當時東亜同文書院には豪傑が澤山ゐたが石射さんはこれ等豪傑連中と親交が深かつた、友達との友情に厚く部下の面倒をよく見る人である云々

盡きぬ親心

お百姓さんは朗か 强氣を見せる珈琲
又もや手厚い保護政策

第二次歐洲大戰の勃發などによりその前途勘なからず悲觀的だつた聖州珈琲界も、一、從來三十パーセントだつた犧牲割當が二十五パーセントに引下げられたこと 一、新らしく三十パーセントの割當制度が設けられ珈琲院はこれを五十ミル乃至六十五ミルの制で買上げること 一、昨年度生産珈琲の中百五十万俵を據り七十ミルの割合で珈琲院が買上げること等々と先ほど政府のとつた手厚い保護政策で俄然生氣を取戻し一時は珈琲優良地帶ではコツコ一俵二十ミルから二十二ミル、稀には二十七ミルからの高値を呼んだ地方もあつた位ひだ、ところがこんな狀態も永くは續かず、これも歐洲大戰の見透しきかぬところからか銀行筋の融資は至極不活潑で、そのため珈琲界の金融狀態も思はしくなく、加ふるに輸出商も大戰による船腹の不足などから商賣も消極的といふ譯で、あれやこれやで又もや尻下りを見せ十五ミル前後となり、一時の好値も結局は地方仲買人の思惑買ひに終るかに見えたが、それが二三日前から斷然强氣を見せ又もや二十ミル以上の好値を出してる地方もあるといはれるこれについて消息通の觀測は珈琲界への金融の行詰りを打開するために豫て生産者が當局に保護政策の實施を請願してゐたが、それが來る十九日各州統領参集して開かれる珈琲會議に於て充分通りまで生産者の請願が達成される見込みがついたといふ嬉しい噂さが傳へられてゐるから、そのための好轉であらうとのことである

浮氣者
上つた!上りました 棉花も斷然强氣です
をめぐり輿論は沸騰

本職の棉屋さんでもサンザンに手古摺らすほど浮氣ものゝ棉花も、永らく三十九ミル台におさまりかへり、この落付き振りには却つて大向ふの一般大衆を物淋しがらせてゐたものだが、それがあらぬか最近又ぞろ本性を現し俄然ヒステリー女みたいに强氣を見せ昨十五日など遂に四十一ミル五百レースの買手が現れるまでにのし上り、久し振りに少々ばかし景氣のいゝところを見せてくれた、これについては依然としてこの强氣の原因を歐洲大戰に結び付けいよいよ近きを思はせる獨逸の英本土上陸作戰の決行により大戰の終熄も近きにありとの氣構えを反映してるんだと至極自信タップリに言明、大いに第六感の鋭いところを見せてる向もあれば、一方では豫て棉作者組合から政府當局に請願してゐた棉花への融資がいよいよ近く實現されることになつたからだらう、となかくうがつたやうなことを力說する者も少くない、ところが又一方では今度カナダが十五萬梱に余る大量の棉花をブラジルから買付けることになつた、いやそう決定したかどうかは知らぬが、どうもこの話は間違ひないところらしいと大變な朝報を傳へる者もあるし、他方ではいやカナダとの話は知らぬが、近く西班牙、ポルトガルへ向け大量のブラジル棉が輸出されることは決して噂さだけではなく、着々として商談は進捗してるらしいとか、いやはやブラジル棉近頃の强氣をめぐつて輿論はケン〜〜ゴウ〜〜全く賑やかである

一筆啓上 母國に歸りて
在留邦人の勞苦に 感謝せよと叫んで居ります
大日本青年團理事 秋山照禪氏の便り

昨年來伯約八ケ月に亘つて在留同胞青年男女の指導に當つた大日本青年團理事秋山照禪氏より「在留同胞の皆樣にお傳へ下さい」と左の如き便りが來た

拜啓 其後御變りもなく御活躍のことと拜察し伯國の前途と大和民族の發展のため塵稿に携へませんが私事御地滯在中は御親切な御世話に預り御勞志の程生涯肝銘致すことと存じます

(本年)二月二十七日サントス出帆以來モンテビデオ、アルゼンチン、チリ、秘露を巡講し去る五月二十八日カイヤオを出發太平洋を航して七月六日丁度一ケ年振りで懷しの東京に歸着致しました(中略)全く恙がなく累計三百二十六回の講演を通じ親しく同胞諸君と相語りましたことは誠に感激に堪えません、横濱に澤山の新聞記者の來訪を受け御地の(實情)に就いても色々と話して置きましたが何分紙不足のため思ふ半ばものせませんでしたが、朝日、毎日、讀賣、報知、國民等大新聞は勿論、電通を通じ全國の新聞に紹介してくれました「モダン日本」の記者も來宅し來月號にのせると喜んで行きました、それから外務省、日南產業、日秘協會並に友人關係(大日本青年團、壯年團、中央聯盟、中央敎化團體聯合會、大日本女子青年團、大日本聯合婦人會)主催私の歸朝を歡迎し(南米)を聽くの會が次ぎ次ぎと開催され及ばずながら御地の邦人の勞苦實情紹介と在留邦人の勞苦に對し內地人として關心をもち感謝を捧げなくてはならないことにつき力說致して居ります、幸に外務省の吉澤亞米利加局長、澁澤南米課長、拓務省の拓務局、課長澤田前ブラジル大使、丸山鶴吉、田澤義鋪先生を初め朝野の有力者にも御聽取され身に餘る光榮と存じて(熱心)居ります

外務省に今後毎年一回邦人の慰問と青少年指導をかね優秀な講師を派遣下さる樣要望して置きました

私としてはあらゆる機會に南米を紹介すると共に御地の子弟を祖國で敎育される場合、親達に代つて訓育にあたる家庭寮の樣なものを造つて上げたら等と考へて居ります

兎に角有難う御座いました 一ケ年に渡る日誌と三冊に餘るアルバムを繰り返し嬉しかつたこと苦しかつたこと等を走馬燈の樣に思ひ浮べて讀んで(感謝)を捧げ、皆樣の御健康を御祈りして居ります(後略)

東京市澁谷區千駄ケ谷三ノ五二九 秋山照禪

わが文化の粹を絕讚
ペン俱樂部會長 ソーザ氏の日本印象談
Rapidas impressões do Japão pelo dr. Claudio de Souza

伯國文藝院會員ペン俱樂部會長クラウヂオ・デ・ソーザ氏は數ケ月にわたる日本訪問の旅を終つて歸伯、頃日文藝院が歸國する桑島大使のために設けた送別會席上、日本印象を講演、さすがに碩學で文人のソーザ氏の講演だけに聽衆に深い感銘を與へた、ソーザ氏は元來醫學を專攻したが、若い時から文藝に趣味を持ち且つ同家は富豪でもあるため世界各地を漫遊その他の文物に氏一流の犀利な觀察を加へ氏の詩囊を肥してゐたものである、日本印象記も普通の旅行者のそれとは全然趣を違にし、日本人の衣食住、趣味生活から皇室に對する尊崇、文學藝術にまでわたつてよく日本人の特質を喝破してゐる、次に同氏の「日本の印象」中興味ある點を摘記して見ると氏はまづ日本人の衣食住の簡素なる點に驚嘆、日本の家屋には別に仰々しい家具も裝飾もなく、万事疊の上で解決、歐米の椅子やソフアは單に虛榮と安逸の表徵にすぎないと述べ、次に日本の庭園の美に對しては日本人が如何に自然を愛する國民であるかを强調、要するに日本人は豪華なもの虛榮的なものは排斥すると述べ、次に日本が可耕地一平方哩ごとに二千八百といふ過剩人口を擁し、生活圈の狹少に對し口籍に苦情をいふ獨伊が右割合は僅か八百人である點を引合ひに、日本人がいかにその狹少な國土を營々として利用してるかを讚嘆、日本の國體については万世一系の皇室と國民の感情、その親子の關係を說いて世界史に比類ない點を認め、從て日本では變革も決して起り得ないと斷じ、最後に日本の文藝特に和歌、俳句についても文人らしい憧憬と深い理解の念を寄せてゐる

更生の 苦難の四ケ年!
いまぞ"茨の路"も突破
スタート切るバナナ組合

仲買人の暴利防止のため一九三六年九月ジュキヤ線一帶在住邦人バナナ栽培者によつて創立されたジュキヤ線バナナ組合では創立當時一四〇人四〇〇〇株であつたが、初の成績がよかつたゝめ三ケ月のうちに倍以上に躍進バナナも月八萬房か九萬房まで輸出する樣になり(前途洋々)たるものがあつたが、同組合と特約してゐた外人商社に二百コント余の引つかゝりが出來、役員はその打開策に盡力するうち、この際につけ込み仲買人は組合攪亂運動をはじめ、そのため組合員で脫退する者が出るなど毎年缺損つゞきで昨年末には自然消滅といふ處まで行き詰り解散說さへ唱へられるに至つた

だが飽くまで仲買人の暴利を排し邦人生産者の利益擁護のため頑張り通して來た組合幹部と居殘つた組合員の努力は實を結び昨年十二月サントス古川副領事の斡旋で今年一月からブエノスの伊藤忠商事と取引開始(金融の道)をつく樣になり從來の赤字を一掃、八月末まで黑字の連續といふ好成績である 現在歐洲大戰の影響で市場も亞國のみに限られ、また輸出の不順當も手傳ひ、なほ苦難の前途を思はせるが、過般のあるぜんちな丸で歸伯した花城理事長を中心に去る九月八日ジュキヤ線イタリリー驛で臨時總會を開き一致團結組合の更生に努力することを誓ひ輝しき復活のスタートを切つた なは伊藤忠商事でも利害關係を超越して邦人組合(更生の爲)努力をなし、同商事聖市今泉駐在員の盡力でブエノスにあつた借金も着々返濟しつゝあるなど組合の前途は明るい

貿易祭に 在伯邦人も參加
今秋十月東京で開く

今秋十月紀元二千六百年の佳き年を記念し日本優良物產協會では東京に於て貿易振興祭を催し海外事情を紹介する事となつたが、在伯邦人側の參加も希望し來つたので、在聖市日本商業會議所が中心となつて資料を蒐め送る事となつた

熱球の跡
全伯野球大會 本社後援

大番狂はせ バストス擊破
マリリヤ代表コロネル軍

マリリアのコロネル軍は豫選で大豪バストスを擊破したことでもう充分だつた、他人の家の電話で話してゐるように全伯大會に出ては來たが、どうも調子が出ないうちに敗れ去つた

×

このチームの人氣の中心はなんと云つても牛然と現れた作田投手であつた、豫選觀戰者はこの投手の快力と頭腦を激賞してゐたが、案外だつたのは相手がチト手ごわかつたためか、腕が鈍つたか、いづれにしても、なす術もなく濟んでしまつた

×

回を重ねるに從つて凄味が加はると專へられてゐたから、或は試合數が少なかつたためかも知れない、あんな投手にバストスが捻ねられるわけがないなんて隨分失禮なことをいふファンがあつたが、映えなかつたけれども仲々味もあつたのは事實だ

×

中堅で主將を勤めた星名選手は技よりも人格を買つた人と許するものもあつたが、こんなに色々の批判が飛び出すからには必ず言ひ知れるよさがあるのは事實だらうが、なんせ試合數が少なかつたため長所も全部發表せずに濟んだのは殘念と云ふもの

×

このチームはマリリア市の一町內チームであつた、全マリリアを糾合して强力チームの出現の機運が動いてゐるが是非さうあつてほしい、全マリリアの聯合軍となればまだ〜〜充實したチームが出來る名人が集まらねばどんなに頑張つても一定以上は出ない

×

いづれにせよこのチームの演じたバストス擊破の輝く記錄は不振のパ延長線球界の一大推進力となりその將來は必ず恐るべきものがあると大いに期待されることになつたのは蓋し本年度最大の收穫と云ひ得る(寫眞は星名主將)

(リンスの球興)
猿蟹(カザード、ソルテイロ)チーム出現
藤倉さんもラケツトからバットへ……

第五回全伯野球大會の興奮は今や各方面に大きな波紋を描き各地方で新興チームの結成を見てゐるが、リンス地方でも久しく沈滯氣味の野球が新設球場の竣工と野球の多羅間さんの歸植で輪に輪をかけて大きく動き出し、往年の華々しさを取もどすことになつた

少年野球の華は今や青年の花形となり、特に庭球の藤倉氏も當分ラケツトも握らず專らバツトを振り廻すことになり、久しぶりでリンスには野球の春が甦つてゐる

さしあたりカザードとソルテーロの兩チームが結成され、カザード軍は「マカコ」ソルテーロ軍は「カランゲージョ」と稱し猿蟹合戰をやりフワンの忘れかけた熱を喚び起さうと、リンス學園チームも加はつて定期的なリーグ戰を始めることになつたと

長期戰

× ×

▼…別項更生のスタートを切つたジュキア線バナナ組合では從來のサントス市ランゼル・ペスターナ街の事務所をジョゼボニフアシオ廣場二十八番(千田寫眞館階上)に移轉活潑に事務を執つてゐる

▼…チーム結成初ッ旗、文教會寄宿舍軍と戰つて黑星を頂戴した領事館野球チーム、その後カモになる樣な相手をさがしてゐたが去る土曜日一戰を交へ熱戰?七合の後二十一對十一で大勝しました、これに勢ひを得てサテお次は何處だと大した鼻意氣です、當日の球の跡は次の通り

產 1 2 4 0 1 1 3 0 ……
領 1 0 1 1 2 1 1 4 2 0 …… 2111

▼…好評の長谷川敏子さん來る十八日夜はサントスでお蝶夫人を公開するが、近く日本を題材にした歌劇「イリス」を聖市で上演するので着物一切を東山絹織物店で調製した

▼…これはピッショ狂の話去る土曜日發行のブラジル朝日、聖報、時報の三新聞の番號をテルノに組んでジョーガした物好きなのが居た不幸?にして聖報、時報は出たがブラ朝の番號が違つてゐた、處が皮肉にも翌日の新聞番號がその日のピッショ番號と同じであつたのを發見、何故一日早く新聞を出さねんだ、五コント五百取りそこなつたぢやないかとボヤいてゐたが、それや無理で御座んせう

▼…例の「生長の家」その名の如くどん〜〜生長しマリリヤでは毎月第三日曜日に集會を催してるが、來會者二百名を越えるといふ盛況振り

▼…民選代 輪湖さん叫べど……一向減らないピッショ黨……マリリヤでは市內のシヤレー約百五十軒のうち八割位が邦人經營のもの毎日邦人の懷中から飛んで行く金が五、六十コントは下るまいとの話

サンゼロニモ市 第一回農產品評會

北パラナ、サンゼロニモ市に於て去る十日第一回農產品評會が開催されブラ拓トレスバラス移住地よりも先般同移住地で催された第五回農產品評會の出品物を陳列したが、牧畜一本槍の地方の同市にかゝる催しをなし、その地方の產業開發に資し且つ我が同胞の絕えざる努力の有樣を當國民間に紹介した意味で誠に有意義なものであつた

市況 (十六日)

品目	安値	高値
▼アロース		
アグーリヤ[上]	六〇,〇〇〇	六三,〇〇〇
ブランコア	五〇,〇〇〇	五三,〇〇〇
カテテア	四三,〇〇〇	四五,〇〇〇
▼フエイジヨン		
ムラチーニヨ[上]	五七,〇〇〇	五八,〇〇〇
同[中]	五四,〇〇〇	五五,〇〇〇
▼ミーリヨ		
アマレーリヨ	一七,〇〇〇	一七,一〇〇
アマレロン	一六,四〇〇	一六,五〇〇
クリスタル	ノミナル	
▼バタタ		
アマレーラ[上]	五七,〇〇〇	五八,〇〇〇
ブランコ中	—	—
▼マンヂオカ粉	三一,〇〇〇	三一,五〇〇
▼マモナ	六五〇	六八〇
▼棉實	三,〇〇〇	三,二〇〇
▼アメンドイン[上]	一四,五〇〇	一五,〇〇〇
▼セボーラ	—	—
▼砂糖		
レフイナード[特上]	七一,五〇〇	七二,〇〇〇
フイルツラード[上]	六八,五〇〇	六九,〇〇〇
クリスタール	六三,〇〇〇	六四,〇〇〇
▼小麥粉	五三,〇〇〇	五四,〇〇〇
▼珈琲	—	—
▼棉花	四〇,〇〇〇	四一,五〇〇

野菜部(コチア)(蔬菜部調)十六日

品目	安値	高値
▼トマテ(箱)	一七ミル	二三ミル
▼レポーリヨ(袋)	一五ミル	二三ミル
▼エルヴイリヤ(箱)	二四ミル	二八ミル
▼ピメントン(箱)	一〇ミル	一四ミル
▼バージエン(箱)	二〇ミル	二五ミル
▼ペピーノ(箱)	二〇ミル	二五ミル
▼バタタドーセ(俵)	七ミル	一五ミル
▼ボブリーニヤ(箱)	二〇ミル	二五ミル
▼セノーラ(束)		一ミル五〇〇
▼コーベフロール	四ミル	一八ミル
▼ナス(箱)	七ミル	二五ミル
▼玉子(打)	三ミル	三ミル五〇〇

謹告

本社出張員田中三郎儀、今般一身上の都合に依り退社、今後本社とは關係無之候
右謹告仕り候

今般永々御世話に相成り候田中三郎の後任として田中行雄を貴地方に出張致させ居り候間、倍舊のお引立の程願上候
右謹告仕り候

昭和十五年九月十七日

日伯社

パウリスタ延長線各位

農產物仲買及委託販賣
聖市中央メルカード・バラツカ三七 新垣幸一 電話二−〇〇八七番

齒科 古澤
ブタンタン大通り中間 コチア道の向側 エステヴアン・ロツペス街一七

CHÁ RIBEIRA PRETO

Dr. Pasqualino Nucci
R. Luzitana, 1152 Campinas
一般外科 整形外科 骨挫骨、關節炎
診療時間 午前九時至十一時 午后三時至五時半

Restaurante Caverna Paulista
R. Libero Badaró, 39 Tel. 3-2978 - S. Paulo
各種內外飲料物 宴會、婚禮には特別サービス 家族揃つて御來店の程を 晝食夕食 七釺

Dr. G. Christoffel
Praça da Republica, 8 - S. Paulo
診療時間 午前9…11 午后3…6 土曜日9…11
消化、呼吸器病、性病 心臟病、血液檢查其他
……日本人歡迎……
ベルリン市の各病院に於ける臨床治療法の特技を以て診療します

急募
青年二、三名 仕事は簡易、希望者は左記へ面談の上
サントス市マルシアル・ベーゴ・ジュニオール街一六 遠木

日本への御土產には 蜥蜴、蛇、鰐皮並びに細工物
弓場井末松 聖市マジョール・ディオゴ街五六

パステス屋
客つき貸したし
電話 三−一〇〇二 R. João de Carvalho, 2 アルマンド

Dr. S. Zakimi
Advogado Traductor Publico
C. P. 3730 S. P.
座喜味法律事務所
聖市カルモ街一六 電話二−四三五八 自宅五−〇〇六三

帽子學校
生徒は最初の時間から製帽に掛る斬新で簡單に習得した獨得法、サンパウロ唯一の公認學校です
Rua Pamplona, 1072 電話 7-3804

Redacção e Administração:
Rua Maestro Cardim, 1109
Teleph.: 7-3325 e 7-3326 - Cx. Postal 375
SÃO PAULO-BRASIL

BRASIL ASAHI
EX-NIPPAK SHIMBUN

DIRECTOR: José Yamashiro

ASSIGNATURAS:
PARA O BRASIL { Anno . . . . 60$000 / Semestre . 30$000
PARA O EXTERIOR - Anno. . 120$000
ANNUNCIOS — Temos á disposição dos interessados uma tabella completa de preços p/ annuncios nesta folha

Anno I | São Paulo — 3.a feira, 17 de Setembro de 1940 | Num. 46

NOTAS E EDITORIAES

Segundo informa de Tokyo a agencia Dômei, na presença de S. M. o Imperador, o novo embaixador do Nippon junto ao governo brasileiro, snr. Itarô Ishii, tomou posse do seu cargo ás 13,20 horas do dia 14 do andante. Na mesma occasião foi empossado o novo embaixador em Moscow, general Tatekawa.

***

O "Correio Paulistano" e o "O Estado de São Paulo", orgams dos mais conceituados da imprensa brasileira, publicaram, domingo ultimo, a conferencia do escriptor e dramaturgo Claudio de Souza, que esteve recentemente em visita ao Imperio do Sol Nascente. A conferencia intitula-se "Rapidas Impressões do Japão" e foi pronunciada na Academia Brasileira de Letras, quando o snr. Kazue Kuwajima, embaixador do Nippon, foi recebido em sessão solenne por aquella casa de immortaes.

E' um trabalho notavel, não só pela penetração e cultura do illustre escriptor brasileiro, como pelo interesse que despertam os aspectos da civilização japoneza alli focalizados, com rara intelligencia.

Chamamos a attenção dos nossos leitores para o trabalho do dr. Claudio de Souza, especialmente das pessoas que se interessam pela cultura japoneza.

***

Communica-nos o Serviço Nacional de Recenseamento:

"As perguntas constantes do questionario do Censo Commercial não offerecem aos commerciantes nenhuma difficuldade para o respectivo preenchimento. São todas referentes tão só á constituição juridica da empreza ou do estabelecimento, montante de certas despesas, movimento de negocios no anno de 1939, stock, etc. Nenhuma casa commercial deixa de ter seu guarda-livros ou o seu encarregado de escripta, para quem o lançamento das respostas pedidas será tarefa simplissima.

Os responsaveis por qualquer empreza ou estabelecimento do nosso commercio não precisam, pois, do auxilio de um recenseador para preencher o questionario, porque todos os dados se encontram na sua propria escripta, a cargo de um funccionario especializado, portanto o melhor ou mesmo o unico collaborador conveniente para o cumprimento do dever censitario.

Finalmente, o preenchimento dos questionarios do Censo Commercial compete ao proprio commerciante, que é o responsavel legal pela exactidão das informações prestadas".

O controlle das sociedades de intercambio internacional

A extincção do Departamento Cultural do "Gaimushô"

Tokyo, 13 (Dômei) — Em proseguimento ao plano de reorganização total do ministerio dos Negocios Extrangeiros, os principaes chefes desse ministerio resolveram, por decisão unanime, extinguir o Departamento Cultural que existia nesse ministerio desde 1924. Esse departamento teve papel destacado no incentivo das relações internacionaes e no elevantamento cultural dos diplomatas em geral. Essa resolução de extinguir tão importante departamento causou, como era natural, grande surpreza nos meios culturaes em geral, principalmente nos circulos incentivadores da cultura internacional. O ministerio do Exterior reconhece o valor innegavel desse departamento, de maneira que a sua extincção não significa o abandono dos trabalhos tão uteis que são desenvolvidos por esse orgam. Os trabalhos até agora feitos por esse departamento, taes como os estudos artisticos e intellectuaes referentes á China serão continuados normalmente pelo Departamento de Propaganda e Informações do "Gaimushô" e pelo Departamento de Restauração da Asia. Tambem os directores de sociedades culturaes particulares, como os da Sociedade de Fomento da Cultura Internacional e de outras congeneres são de opinião de que é indispensavel uma reorganização radical nessas instituições.

Existem actualmente mais de 50 sociedades que trabalham no incremento da cultura internacional mantendo cada qual com uma ou varias nações relações culturaes sem a minima collaboração com as suas congeneres, resultando desse facto grandes inconvenientes e despesas inuteis. Percebendo a não correspondencia desse estado de coisas com o grande plano de reforma de todas as instituições do paiz projectado pelo actual governo chefiado pelo principe Konoye, a "Kokusai Bunka Kyôkai" (Sociedade de Fomento da Cultura Internacional) é do parecer ser necessario fundar um departamento official de controlle dessas sociedades que no momento agem absolutamente independentes.

Para se conseguir essa reforma, seria necessario que existisse uma sociedade cultural para cada nação extrangeira, devendo todas ellas ser controlladas por um orgam central, que para a maior efficiencia de sua acção, dividiria essas sociedades em varios grupos: da Europa, da Asia, das Americas e assim por deante.

Populações chinezas indignadas com o governo de Chang

Hong-Kong, 11 (Dômei) — Consta que Chungking já se acha reduzida a cinzas, restando só uma pequena parte da cidade, intacta. A provincia de Szchwan, devido aos continuos e efficientes bombardeios da aviação imperial ficou em estado desesperador. Mais de 500 mil habitantes soffrem a consequencia dos bombardeios e em toda parte levantam-se vozes de indignação contra a má organização de assistencia do governo nacionalista, principalmente a inefficacia da defesa anti-aerea.

Em vista disso, os habitantes dessa região dirigiram um memorandum ao seu governo no sentido de serem aperfeiçoados os meios de soccorro ás populações necessitadas. Em outras provincias, como Sikang, nota-se tambem forte demonstração de indignação ao governo de Chang.

Novos navios para a companhia "Nanyô Kai-un" — Intensificação da navegação para as possessões hollandezas

Kobe, 13 (Dômei) — Com o fim de desenvolver mais a navegação entre os portos japonezes e as possessões hollandezas situadas nos mares do Sul, a poderosa companhia de transportes maritimos "Nanyô Kai-un" encommendou aos estaleiros navaes da Mitsubishi dois navios de passageiros de 8.800 toneladas do typo do modernissimo paquete "Nisshô Maru" e dois cargueiros de 6.800 toneladas.

Segundo consta, os navios em questão serão entregues pela referida companhia constructora em fins de 1942, devendo entrar em actividade immediatamente. Assim, a linha de navegação maritima dos mares do Sul que conta actualmente 13 transoceanicos e mais o "Nisshô Maru" será augmentada de mais esses quatro navios, podendo ser grandemente intensificada essa rota de navegação.

A posse do novo embaixador japonez no Brasil

A brilhante carreira do sr. Itarô Ishii

Noticias telegraphicas da agencia Dômei, procedentes de Tokyo annunciam a posse do sr. Itarô Ishii no alto posto de embaixador do Japão no Brasil, em substituição ao illustre diplomata, sr. Kazue Kuwajima, que, conforme já foi divulgado, acaba de ser chamado a seu paiz, em consequencia do movimento diplomatico determinado pela nova politica externa do Japão.

A escolha do sr. Itarô Ishii para chefiar a representação japoneza em nosso paiz reveste uma alta significação, attendendo-se ao valor do substituto do embaixador Kuwajima e á convicção de que será um continuador egualmente brilhante da politica de approximação que sempre presidiu ás relações entre o Japão e o Brasil.

Um breve retrospecto sobre a carreira do novo embaixador revela-nos quão rapida tem sido a sua ascensão, que não é senão o reflexo da sua brilhante e aprofundada cultura e do seu admiravel tacto diplomatico.

Nascido em 1887 na Provincia de Fukushima, aos 21 annos de idade, isto é, em 1908, collava grau pela Universidade de Tôa Dôbunshoin. Como premio ao seu brilhante curso, sete annos mais tarde ingressava na carreira diplomatica, sendo nomeado vice-consul em Shanghai, depois em Cantão, Tientsin e posteriormente, em 1918, designado para servir em São Francisco.

Dois annos depois, ou seja com cinco annos apenas de carreira diplomatica, era o sr. Itarô Ishii nomeado secretario da embaixada em Washington; occupando em seguida as funcções de segundo secretario de legação no Mexico, chefe da 3.a secção do Departamento de Commercio, no Ministerio das Relações Exteriores até que, em 1927, attingia o posto de primeiro secretario da embaixada em Londres.

Dahi por deante continuou a ascensão, cada vez mais rapida e brilhante, do illustre diplomata, que de Londres sahia, em 1929, para a Mandchuria, afim de occupar as altas funcções de consul geral em Kirin, de onde foi removido para Shanghai com egual categoria.

Passaram-se quatro annos até que, em 1936, era o sr. Itarô Ishii nomeado Ministro Plenipotenciario no Sião.

Nesse alto posto da representação do seu paiz, conservou-se até o anno seguinte, quando passou a dirigir o Departamento da Asia Oriental no "Gaimushô".

Pouco tempo, porém, permaneceu nesse cargo, pois que em 1938 era nomeado Ministro Plenipotenciario em Haya, seu ultimo posto, onde se conservou até o collapso da Hollanda.

Agora attinge o sr. Itarô Ishii mais uma brilhante e merecida etapa de sua carreira, com a distincção que lhe vem de conferir o governo de Tokyo, nomeando-o para o cargo de embaixador no Rio de Janeiro.

Exito das forças imperiaes nas regiões do Yang-Tsé

Nankin, 12 (Dômei) — Varios destamentos do Exercito Imperial em combinação com a esquadra naval de vigilancia do Rio Yang-Tsé, realizaram uma forte offensiva contra quatro destacamentos do exercito communista chinez que agiam na zona septentrional do citado rio. Essas forças communistas foram repellidas para as vizinhanças do lago Hung-tse, tendo recebido pesadas baixas.

Hoje, outros objectivos militares chinezes existentes nessas regiões foram completamente destruidos pelas forças imperiaes. Consta que nas batalhas travadas entre as duas forças, a baixa foi de 500 homens, ao passo que as nossas tropas não soffreram nada. Outras operações militares das tropas imperiaes estão planejadas para estes dias.

Impressos?

Procure a typographia

NIPPAK-SHA

Primeira conferencia da Delegação Nipponica com as auctoridades das Indias Hollandezas

Batavia, 14 (Dômei) — A primeira conferencia do sr. Kobayashi e membros da Delegação Especial com a Commissão nomeada pelo governo das Indias Hollandezas teve inicio ao meio dia de hontem, no auditorio do Palacio do Governo nesta cidade.

Na sessão foram abordados varios problemas de accordo com o programma elaborado na entrevista concedida pelo governador Cheida ao sr. Kobayashi, chefe da embaixada.

O Resurgimento do Espirito Japonez

Chikao Fujisawa

Continuação (4)

No verão caloroso, esta tendencia dilatadora alcança o alto grau de seu desenvolvimento e começa então uma outra tendencia centralizadora, a qual se manifesta com a chegada do Outono.

E' assim que a acção de *Takami-musubi* dá logar, gradualmente, á de *Kami-musubi*, que attinge o seu ponto culminante no Inverno. Mas, o Inverno, por sua vez, prepara silenciosamente o advento da Primavera, de sorte que as quatro estações circulam sem interrupção e com rhythmo regular. O essencial é que o movimento progressivo, devido á alternancia dos dois principios cosmicos, não deixa nunca de rodar em torno de uma ordem immovel. Esta verdade cosmica não é outra que a *via* (*michi* em japonez e *tao* em chinez), cuja essencia talvez possa ser assim definida: "um centro permanente dentro de mutações incessantes."

Quando desapparecer da vista o centro regularizador em questão, os dois movimentos dahi derivados não tardarão a cahir em antagonismo irreconciliavel, como se não tivessem nada em commum. Mas isto é, infelizmente, o que aconteceu no curso da Idade Moderna, que se afastou pouco a pouco da verdade cosmica, só susceptivel de manter uma unidade dynamica dentro duma multiplicidade. A' luz da sabedoria oriental, o individualismo moderno encontra-se condemnado pois se atreve a negar quasi todas as tradições do passado. A ideologia individualista é uma manifestação anormal da força dilatadora de *Takami-musubi*, o qual perdeu a consciencia de ser arraigado ao centro vital cosmico, symbolizado pela Deusa Solar. Os homens, orientados pelo liberalismo moderno, se sentem, por falta da consciencia profunda de solidariedade espiritual, "individuos" isolados. Taes individuos, independentes, não desejam reconhecer auctoridade nenhuma, na ancia de poderem sempre gozar duma "liberdade". Mas, esquecem elles o facto dum grave risgo. Uma tal attitude nacionalista occasiona, fatalmente, um estado de anarchia, e de confusão, como o testemunha o mundo deslocado de hoje. Os japonezes, pelo contrario, guiados pelo integralismo espiritual, se sentem intuitivamente as partes organicas da vida cosmica total e, por consequencia, sabem contribuir com a sua liberdade bem desenvolvida para a grandeza da Nação, que é incarnada no Successor Directo da Deusa Solar. Isto poderá fazer descobrir o segredo da morte em perfeita tranquillidade de alma dos soldados japonezes no campo de batalha, gritando no momento de expirar: "Viva o Tenno!" (*Tenno Heika Banzai*).

No seio do nosso Estado Familiar, o *Tenno*, — Imperador —, deseja exercer a sua politica absolutamente em conformidade com a "*via*" cosmica, cuja força creadora se revela na alternancia harmoniosa do *Takami-musubi* e da *Kami-musubi*. A este respeito, ha a lembrar que o *Tenno* é, eternamente, a incarnação do "*Hi*" ou a Deusa Solar, — que faz emanar em primeiro logar a funcção de *Takami-musubi* e depois a funcção de *Kami-musubi*. Segundo a mythologia japoneza, a Deusa do Sol, — *Amaterasu O Mikami* —, deu ordem ao seu neto *Ninigi-no-Mikoto* que descesse do Céo a esta Terra do Japão, trazendo comsigo, como testemunho da sua investidura do poder real, um espelho, uma joia e uma espada.

(Cont. no proximo num.) (5)

De Mark Twain

"Tom dizia comsigo que, afinal, o mundo não era um campo inutil. Sem perceber, tinha descoberto um dos principios fundamentaes da conducta humana, a saber: que para fazer que alguem, homem ou rapaz, deseje alguma coisa, basta fazel-a difficil de conseguir. Se tivesse sido um eximio e penetrante philosopho, teria comprehendido, então, que o trabalho consiste no que estamos obrigados a fazer, seja o que fôr, e que o divertimento consiste naquillo a que não nos obrigam.

"E isto lhe ajuduria a comprehender porque fazer flôres artificiaes ou fazer seu serviço numa fabrica é trabalho, ao passo que arrastar madeiras ou subir ao Monte Branco é apenas divertimento. Ha homens ricos na Inglaterra que guiam carros de quatro animaes para transporte de passageiros a vinte ou trinta milhas, trabalhando diariamente nisso durante o verão, porque este previlegio lhes custa consideravel somma de dinheiro; mas, se lhes offerecessem um ganho pelo serviço, isto o mudaria em trabalho e elles deixariam de fazel-o".

Dum livro de Mark Twain, menos conhecido como Samuel L. Clemens, que abri despreoccupadamente. — M.

88 dias no Extremo Oriente

XIII — José Yamashiro

Nara-Kyoto, 29-4-40

Depois do sanctuario Kasuga dirigimo-nos ao monte Wakakusa. E' um monte coberto de gramado verde sobre o qual numerosas pessôas passeiam. E', segundo parece, logar preferido pela população da cidade para pic-nics. Na base do monte ha barracas que vendem brinquedos, bebidas e guloseimas. Do alto se vê toda a redondeza de Nara.

Na casa Hôei, que fica proxima daquelle monte, vimos numerosos typos de catanas nipponicas.

O Todaiji (Grande Templo do Levante), fundado no tempo do Imperador Shomu (724-748), é formado pelos predios do Sangatsudô, Nigatsudô, Gongo e do Daibutsuden, sendo que neste ultimo encontra-se o grande buddha de Nara, maior do que o de Kamakura. O Daibutsuden (o pavilhão do grande buddha), é a maior construcção de madeira do mundo. Tem uma altura de 48 metros. O *daibutsu* (grande buddha), mede quasi 17 metros de altura. O Daibutsuden como o daibutsu foi construido ha cerca de 1.200 annos, mas a cabeça do buddha cahiu por occasião do terremoto do anno 1.515 da era japoneza (855 d. C.). Foi logo reconstruida. O Daibutsuden foi reconstruido tambem em 2.368 da era japoneza (1.708 d. C.). O buddha de bronze, pesa 500 toneladas approximadamente.

O Gongo, que é o terceiro, em tamanho, do Japão, pesa 48 toneladas. Paga-se 10 sen para tocal-o com a tora horizontal, cylindrica, suspensa na sua frente, por meio de grossa corda. A cada pancada o sino produz um som forte, que echôa nas collinas da redondeza.

***

Depois do almoço realizei uma rapida visita ao Museu Imperial de Nara, aproveitando alguns minutos de folga que havia no programma. Ha uma interessante collecção de esculpturas de madeira, documentos historicos, pintura, imagens de argilla (*haniwa*) etc. do periodo de Nara.

***

Nas visitas de hoje acompanharam-nos, além dos nossos guias que vieram de Tokyo, o sr. Hashimoto, da secção de Turismo da Prefeitura de Nara e o sr. K. Shikano, professor de italiano no Collegio de Linguas Extrangeiras do Tenrikyo, uma das principaes seitas do *shintoismo*. O sr. Shikano esteve no Brasil ha cerca de 30 annos atraz. Fundára o primeiro jornal japonez no Brasil, "*Nambei*", que mais tarde se chamou *Nippak-Shimbun*. Tive opportunidade de falar com o professor Shikano, que guarda muitas recordações do Brasil. E' um velho corado, vigoroso, certo.

***

A's 15,44 partimos de Nara, para Kyoto. Como que seguindo o mesmo curso da historia e civilização nipponicas, pois sabemos que Nara foi a primeira capital permanente do Imperio e Kyoto a segunda... Nara foi o centro da cultura japoneza durante o reinado de 7 imperadores (709 a 784 d.C.). E só depois é que Kyoto seria a séde do Throno, durante quasi onze seculos.

Chegamos a Kyoto ás 17,51 horas. Em frente á estação uma praça moderna, circumdada de predios de estylo occidental, predominando hoteis. Numerosos taxis. Seguimos immediatamente para o Miyako Hotel, que fica na base do Higashi-Yama. E' um hotel de grandes dimensões. Jantar. Servem-nos kyotenses graciosas. Depois do juntar, sahimos a passear. E' uma cidade que estáse occidentalizando aos poucos. Kyoto é menos conservadora do que Nara. Sua população é de 1.200 000 almas, approximadamente. Kyoto, fundada pelo Imperador Kwammu, nos fins do seculo VIII da era christan, foi centro de todas as actividades — politicas, economicas, artisticas, religiosas, culturaes —, por mais de um millenio. Occupa, por isso, ainda hoje um logar de destaque especial entre todas as cidades do Japão. E' preciso conhecer Kyoto para comprehender o verdadeiro Nippon, pois não obstante a occidentalização que se está processando numa parte da cidade, na essencia ella se conserva genuinamente nipponica. A modernização foi imposta pela industria. Sabemos que Kyoto produz finos objectos de metal, lacca, ceramica e kimonos finos de seda. Mas ao lado e acima da sua industria, esta velha cidade nipponica, possue um grande numero de templos e sanctuarios, (1.130 templos buddhistas e 130 sanctuarios shintoistas!), bem como logares famosos na historia. E' rica, nas suas vizinhanças, de pontos pittorescos como o monte Hiei, o lago Biwa, a correnteza do Hozu o esplendor do Arashiyama Momoyama, Uji, etc. etc.

Haviam-nos dito que Kyoto era a terra de mulheres bonitas. De facto, são lindas. Vestem-se com apurado gosto, são de estatura regular, tez branca e de um rosado delicado nas faces, nariz bem feito e com uma expressão de infinita doçura no olhar... Talvez a civilização multisecular haja requintado não só o espirito, mas tambem o physico das eyas kyotenses...

***

Hoje é *Tentchôsetsu*, a data natalicia de Sua Majestade o Imperador. E' o maior feriado nacional do Japão. Toda a nação em peso rende homenagem ao Soberano Reinante, numa demonstração inequivoca de lealdade para com o Throno e de ardente patriotismo.